

令和5年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和5年3月31日時点】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ				所管部室(課)名		環境部 環境政策室			
所在地		〒565-0826		吹田市千里万博公園4番3号 吹田市資源リサイクルセンター内							
設立年月日		平成4年3月16日(財団法人設立)		代表者職・氏名		理事長 門脇 則子					
基本財産		963,280,000円		①本市出資金(本市の出資割合)		円(%)					
				②本市出捐金(本市の出捐割合)		538,800,000円(約56%)					
設立目的	地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。										
事業内容	(1)啓発・普及活動等に関する事業 (2)市民研究等に関する事業 (3)講演・講座の開催等教育に関する事業 (4)その他本法人の目的を達成するために必要な事業				(具体的な事業内容) (1)市民工房の運営 (2)市民の不用品の交換、物流を促進する事業 (3)環境問題及び環境保全活動推進に関する市民・事業者向け啓発事業 (4)調査研究に関する業務 (5)展示等に関する事業 (6)施設の使用許可及び使用料の徴収に関する業務 (7)視察・見学者の対応 等						
			合計(市職員及び元市職員以外も含む。)						合計(元市職員以外も含む。)		
			うち市職員		うち元市職員					うち元市職員	
役員数(人)	理事 (取締役)	常勤	1	0	1	職員数(人)	常勤	5	0		
		非常勤	9	2	2		再任用(※1) 常時勤務	0	0		
	監事 (監査役)	常勤	0	0	0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0		
		非常勤	2	0	1		非常勤	3	0		
65歳以上の役員数(※2) (人)		5		3	臨時 雇用員	33					
評議員 (人)		9	1	1	65歳以上の職員数 (※2)	22	0				
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。(いずれかに○)						該当 ・ 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											
元市職員に対して退職金を支給している。(いずれかに○)						該当 ・ 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											

※1 再任用職員とは、60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和5年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和4年度決算】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ		所管部室(課)名		
				環境部 環境政策室		
財務状況(円)	損益計算書	総収入	72,328,321	貸借対照表	資産の部合計	1,155,658,959
		(うち市受入金)	50,682,646		負債の部合計	8,193,917
		(その他)	21,645,675		(うち有利子負債)	0
		総費用	70,547,618		正味財産合計	1,147,465,042
		経常損益	1,780,703		(うち一般正味財産)	27,385,042
		当期損益	1,780,703			
市から団体への支出(円)	主要内容、算出根拠等					
	フロー	補助金				
		委託料				
		指定管理料	50,682,646	吹田市資源リサイクルセンター指定管理委託料		
		その他				
		計	50,682,646			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金(出損金)	538,800,000			
		その他				
		計	538,800,000			

令和5年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び 人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な組織運営に対応できるよう規程整備を実施。 ・市民研究所担当と業務担当を事業担当として1本化し、一体的でより効率的な運営に変更。 ・役員10名、監事2名体制を継続。 ・競争試験による採用方式。 ・優秀な職員の採用及び現行職員のモチベーションアップを目的とし、退職職員1名の人的補充をせず、それを原資として全体の給与を回り、主幹以下の昇給制度や参事以上の役付手当支給も計画(R5より実施)。 ・事務局内のジョブローテーションを見据え、各職員の業務に資する様々な専門研修、またOJTや専門知識の相互教示を実施。eco検定資格取得推進。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	◎	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次中期計画に描く将来のプラザ像を目指し、新たな時代に向けた市民工房の整理や環境実践教室の見直しの検討を開始。 ・市民アンケートや来館者の生の声を市民ニーズの指針として有効活用。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次中期計画を経営の中核に据え事業実施。 ・外部助成金獲得を新たな財源確保の事業として位置付け実施(2件応募したが、助成には至らず)。 ・紙ベースでの情報共有をメールベースに、また不要時の消灯等、経費抑制の基本を徹底。 ・20年、30年国債運用を継続。将来の償還(売却も想定)に備えた新たな運用情報を継続的に取得。 ・R4年度から外部監査依頼を予定していた環境問題研究者(大学准教授)には、市民研究所主担研究員を委嘱し内部からの改革へ。
	自主財源の確保に努めている。	◎	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	○	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・当財団HPに経営状況、事業計画を公開。 ・当財団HPに役員及び評議員名簿、理事会や評議員会の議事録を公開。 ・HP、Facebook、twitter、及び吹田市報、インフォレストすいた展示会等で情報発信。 ・個人の許可を得て収集したメールアドレスや役員、評議員、職員のマイナンバーの情報管理を徹底。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和5年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間:令和4年4月1日から令和5年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和4年度目標	令和4年度実績	(参考) 令和3年度実績
	成果指標			
啓発・普及活動に関する事業(市民工房の運営)	市民工房事業の充実と深化	脱炭素に向けた市民工房事業の目的明確	市民工房の目的の明文化と掲示を実施	—
	市民工房見学者数	対前年度比増	4,868名 (対前年度比28.3%)	3,793名
啓発・普及活動に関する事業(脱温暖化に関する事業)	環境啓発動画コンテストの一層の普及	コンテストの認知向上と参加者数の拡大	参加作品の質・数の充実	参加作品の質・数の充実
	応募作品数	対前年度比増	応募74作品 (対前年度比76.2%)	応募42作品
展示等に関する事業(らっくdeフリマ)	認知度の更なる向上による事業安定を通じた資源循環の活性化	来館者数の拡大を通じた資源循環の活性化	来出者数増につながる効果的な展示の導入	来出者数の為の広報の充実
	来館者数の拡大	対前年度比増	6,346名 (対前年度比26.9%)	5,002名

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
プラザの全事業	ここ数年に亘り、コロナ禍の影響を受け多くの事業が当初の計画通りに実施できない状況が続いたが、令和4年度の下半期から徐々に平常を取り戻す兆しが見え始めた。この状況下において次の5年間の当財団の進むべき道を示す第2次中期計画が策定され、充実した環境啓発事業を遂行するために、種々の課題の解決を目指して、令和4年度から取組みを始めた。単年度での事業から次代へ繋がる中期の取組みを重視している。	第2次中期計画の初年度となる令和4年度の成果については、既に報告の通りである。特に市民研究所事業については、市民目線に立った環境問題の調査・研究・実践活動を実施するための体制の見直し、整備に取りかかった。

(3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<p>当財団はその誕生から、吹田市資源リサイクルセンターを管理運営する団体として設立された経緯があり、その意味において、この施設の指定管理者として事業を継続することこそが、定款に記された環境啓発の責務を全うすることであると認識している。このためには今後ともこの施設の指定管理者として、吹田市から信頼を得て付託される存在であり続ける必要があり、当財団の職員の専門知識の向上や事務処理他に係る生産性の向上を含めた、プロとしての意識改革が従前にも増して求められていると考えている。次回の指定管理者選定では、第2次中期計画に記載した課題を完遂することで、公募となっても唯一無二の存在として選定される強固な組織を構築する。</p>
--

令和5年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間: 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	○	資源リサイクルセンター開設時より管理運営を担ってきた実績やノウハウを活用し、環境スクール、市民研究員による研修講座など、団体独自の事業を実施している。しかし、啓発手段及び啓発内容が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地があるため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	○	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

上述のとおり、(公財)千里リサイクルプラザは、循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献している。例えば、比較的新しく開始した環境啓発動画コンテストは、地球温暖化、食品ロス、プラスチックごみ等の問題を様々な角度から応募者自らが考え、その内容を動画にすることで、応募者及び動画視聴者の環境意識の向上につながっている。また、くるくるキッズ環境スクールは、親子を対象とし、環境施設見学会、自然体験、工房体験等の連続講座を行うことで、若年層の啓発につながっている。

一方、展示室を利用した展示等は、啓発内容及び啓発手段が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地がある。また、利用者サービスの向上につながる新しい取組(例えば、フリーマーケットアプリ等を使用した再生成果品の広報、ホームページの見やすさ・ページ全体の統一感の改善等)にも積極的に取り組まれない。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

(公財)千里リサイクルプラザは、資源リサイクルセンターの運営団体として、府、吹田市及び137社(者)の民間団体等からの出捐金を受け設立され、本市からも538,800千円を出捐している。

平成4年のセンター開設時より、管理運営を担っており、平成18年度の指定管理者制度導入後は、市からの受託事業に加え、出捐金の運用益を活用した様々な自主事業を実施し、指定管理者として長期間にわたり、安定的な運営を行ってきた実績がある。

団体の設立経緯や、市との連携体制を維持しながらの管理運営や事業展開を行ってきた実績を踏まえ、今後も積極的に団体との連携の強化を図るものとする。